

DISORDER6 SHORT STORY 01

待望の小説が連載開始! 物語はさらに深化する—

連載小説1回目となる今回の物語は、ジョーとシーナの2人を執拗に追うマリヲの視点で描かれる。残忍な性格を持つマリヲの過去とは?

連載企画 第1回

「ドレス」

—About Mariko—

TEXT BY 六花梨花



「ボクは、夜が嫌いで、好き。
夜は、ボクが寂しくて悲しい子だということを思い出させるから、嫌い。
夜は、寂しくて悲しいボクのことを温めてくれる手を与えてくれるから、好き。
だけど、今はないんだ。温めてくれる手は——ない。
ボクは、それを求めて……人形になると決めたんだ。」

ボクの一番古い記憶——派手な色に塗られた爪。
それにふれようとしたら、鈍い音がして、目の中に星が瞬いた。
跳ばされたボクを優しく受け止めてくれたのは、ゴミの山。
殴られた顔が痛くて、おなかがすいて、動けなくて——
「酷く臭うゴミに沈んでいく。底で、鉄の扉が冷たく閉じる音を聞いた。
開かない扉。遮光カーテンに閉ざされた真っ暗な部屋。泣くこともできなくなったボクは、何日もそのままだった。」

目を覚ましたら、明るい部屋の、ふわふわなベッドの中にいた。
ボクは、人形になるための訓練を受けることになったのだと、施設の一番偉い人が教えてくれた。どうしてそうなったのか、人形や訓練ってなんなのか、教えられないまま……。

どこにいても、ボクは容赦ない大人の暴力に慣れなくちゃいけないとわかったのは、訓練を受けるようになってからだった。
だけど、あのときは違う。
ゴミの部屋にいた頃は、反撃なんて考えたことなかった。
攻撃されたら反撃を。攻撃を受ける前にとどめを。人間の急所はどこか。必殺の一撃を狙うにはどうするか……そんなことを身体にたたきこまれていく。一方的な暴力じゃなくて、平等な暴力——これが訓練というものらしい。
ボクくらいの子が学校ってところで習う勉強を教え

てもらって、訓練を受けて、寝て、また勉強と訓練の繰り返し。ずっと、ずっと……人形になるための繰り返し。

——暗い何かが、ボクの中で少しずつ少しずつ膨らんでいくのを感じながら。

ボクのために用意された白い部屋は、おぼさんが掃除や洗濯をしてくれているから、清潔で、いい匂いがして、シーツはいつも真っ白で。

だけど、暗いといや。清潔でも、それはいやだ。落ち着かない。嫌い。

扉を開けると真っ先に電気をつける。それでやっと、ボクはこの部屋で、くつろぐことができる。

作り付けのクローゼットは、ボクの宝箱。そっと開くとそこにあるのは、大事なお洋服。

「ただいま、お姉さま」

これは、お姉さまがここを出ると決まったときに、ボクがもらったもの。

お洋服を抱きしめる。かすかにお姉さまの匂いがする。頬が柔らかくなるのがわかる。

目を閉じて、温かな手のひらを思い出す。ゆっくり、ボクの髪を撫でる優しい手。暗い部屋を怖がって泣くボクを、慰めてくれる手。

あの手のおかげで、暗闇は怖いものから嫌いなものになった。怖くない。嫌いなだけ。ボクは強くなったんだ。

だけど……今、あの手はない。ボクより先に、ここを出てしまったから。

ボクも頑張っって、早くここから出なくちゃ。だから、勉強も訓練も頑張らなくちゃ。



PS3

AVG

8月22日発売

DISORDER6

●5pb.
●¥7,140(税込)、限定版¥9,240(税込)

オリジナル小説&新キャラクターを公開!!

殺人事件の犯人に仕立てられたジョーとシーナの逃亡劇を描くAVG『DISORDER6』の発売日が、ついに決定! 今回は新キャラクターを紹介するとともに、本作の前日譚となる小説をお届けしよう。



◀◀刑事や追跡者から追われるジョーとシーナ。手錠でつながれた2人に、ヒナコやアユミたち(写真上)が手助けをする。また、今回登場が判明したマキ(写真左)も協力者の1人のようだ。彼女の運転する車を使って逃亡を試みる展開も?

「あっ……」

少しだけ涙が出た。お姉さまの服を汚しちゃう。慌てて手で拭う。

お風呂に入ったばかり。汗はかいていない。だから、これを纏ってもいい。ボクが決めた、ボクだけのルール。

Tシャツを脱ぐと、ぱさりと髪が落ちてきた。伸ばしている最中で、肩につくつかつかないかのボクの髪。

長いと訓練の邪魔になるって注意されたけど、ボクは無視し続けていた。だって短いと、お洋服が似合わない。可愛くない気がするんだもの。

そうしたら、無理に切ろうと、大人たちが手を伸ばしてきた。

その後のこと、ボクはよく覚えていない。呻き声で我に返ると、一人は血塗れの鼻を手で押さえ、一人は右手の指が半分なくなって、もう一人はおなからどくどく血を流していた。みんな床に転がっていた。

全部ボクのせいだって言われた。抵抗したボクがそうしたって。

ボクは悪くない。いやだから抵抗しただけだ。いやがることをしようとした大人が悪い。

そう言って、ボクは——噛っていた。

訓練を受けている時から、ボクの中に暗い何か……『悦び』があった。

人に傷つけられてばかりだったボクに、こんなことができるんだという暗い悦びが、爆発した。

ボクは噛み続けた。自分でもびっくりするような大きな声で。

噛って、噛って——格好悪く倒れている大人たちから、もっともっと勢いよく血を噴き出させたい衝動に駆られた。血管を狙って振ったボクの手は、たくさんの運しい腕に阻まれた。

部屋に閉じ込められていたボクのところへやってきた施設の一番偉い人は、髪を伸ばしてもいいが、今以上、訓練を頑張るようになって言った。

頑張るのは当たり前のことなのに。部屋に閉じ込めて、頑張れなくしているのは、施設の大人たちなのに……なんで、そんなこと言うんだろうってムカムカしたけど、髪も伸ばさせるし、さっさと施設を出たいし……ボクはうんと答えた。

お姉さまが一番好きだった、シンプルな薄いページのワンピース。いつものように、頭からすぼんとかぶる。背中のジッパーをあげる。素材のリネンが心地よくて、ボクも大好き。

お姉さまが一番好きだった、シンプルな薄いページのワンピース。いつものように、頭からすぼんとかぶる。背中のジッパーをあげる。素材のリネンが心地よくて、ボクも大好き。

マリヲ

CV:下田麻美

執拗にジョーとシーナを追跡している、いつも女装をしている。子どもゆえに善悪の概念が薄く、人を殺すことにためらいを持たない無垢な残虐さを持つ。

謎の女

CV:???

マリヲとともに行動する謎の女性。マリヲからは「お姉さま」と慕われている。

他にもスカート、ブラウス、カットソー……色々あるけど、お姉さまが一番好きなこれが、ボクも一番好き。大好き。

でも……これを着て、訓練を受けるのはいやだ。激しく動いたせいで、破れたり返り血で染みができたりしたら、ボクは立ち直れない。

だから、新しい服が欲しい。ボクが戦うための……可愛い服。

今日の勉強の時間、大人に相談してみた。そうしたら、インターネットというものを教えてくれた。検索の方法を習って、実践。

色なお洋服が表示された。男の子のと違って、可愛い。華やか。

どうせなら、武器がたくさん隠せそうなのがいいな。そう思って検索に引っかかりそうな単語を選んで、入力して……見つけた。

ほこんと膨らんだ袖。中にパニエっていうのを着て、裾を膨らませているミニワンピース。満開のガーベラみたい。

「この服を纏ってお姉さまと会ったら、似合うって褒めてくれるかな……？」

プリントアウトしてもらった服の画像を見て、ボクは呟く。自分でもうっとりした声だなんて思いつながら。

「早く、お姉さまに会いたいな……待っててね、お姉さま」

——大好き。



◀暴走しがちなマリヲの抑え役でもある謎の女。発言から見ても、マリヲよりも上の立場であるようだ。今号の小説内の「お姉さま」とは彼女のこころしいが……。

CHARACTER

物語に関わる2人の新キャラクターを紹介。1人は警視庁所属のベテラン刑事のシマツ、もう1人はジョーとシーナに協力する

ウェイトレスのマキだ。これまでに紹介した登場人物をおさらいしつつ、新キャラクターをチェックしておこう。



ジョー
JOE

記憶喪失の主人公。M気質で、いつもシーナに引っ張りまわされている。



シーナ
SEENA

ジョーと手錠でつながれた少女。ジョーについての断片的な記憶を持つ。



コバヤカワ
KOBAYAKAWA

警視庁所属の女刑事。正義感強いが、任務のためには手段を選ばない。



DATE
ダテ

犯罪心理分析が専門の若手刑事。コバヤカワと組んでジョーたちを追う。



ヒナコ
HINAKO

ひょんなことからジョーとシーナに手を貸す族(チーム)の元リーダー。



ヤス
YASU

ヒナコの舎弟の1人。冷静沈着で、たいいのことでは動じない性格。



タツ
TATSU

単純でお調子者、ヒナコの舎弟。手先は意外と器用らしい。



ルミ
RUMI

ヒナコの舎弟の1人で、おバカで優柔不断と、今どきなヤンキー少女。



シマツ
SHIMATSU

ジョーたちと行動する謎の家出少女。家事の腕前は名人級らしい。



NEW!

シマツ
SHIMATSU

CV:池田秀一

警視庁のベテラン刑事。後輩のコバヤカワの暴走を抑えようとしている。



NEW!

マキ
MAKI

CV:ゆかな

ジョーたちを助けるウェイトレス。普段はクールだが、恋愛にはうとい。